

特集

まとめにかえて

—ユニバーサルデザイン天文教育とユニバース—

高橋 淳（関東支部委員・ユニバーサルデザイン天文教育 WG・茨城県立水海道第一高等学校）

今春、私は、東京で開催されている“DIALOG IN THE DARK”赤坂メディアアート展（ダイアログ・イン・ザ・ダーク 2007 東京）[1]を体験してきました。もともとドイツで発祥し、ドイツ、イタリアには常設館があります。毎年、世界各国において期間限定で開催され、日本でも、1999 年以来、今回で 8 回目となります。

このダイアログ・イン・ザ・ダークとは、真っ暗な空間を、視覚以外の感覚を使って体験するツアー型の展覧会です。アテンド（世話役）は視覚にしょうがいのある方々です。初めて白杖を持ち、不安な心持ちでスタートした私たち参加者でしたが、アテンドの方とともに様々な暗闇の体験を重ねていくにつれ、歩行に不安も少なくなり、聴・嗅・触・味、それぞれの感覚がとぎすまされていく自分を楽しむことができました。反面、安全が保証された“楽しむための空間”だからこそ楽しめたわけで、視覚しょうがい者の方々がまったく初めての場所で行動するとなると、大変な不安感を持たざるを得ないのだろうとも思いました。

しかし、このツアーに参加しての何よりの収穫は、アテンドである視覚しょうがい者の方が、たいへんすばらしいナビゲーターをつとめておられる姿を拝見できたことです。その振る舞いはまさにエンターテイナー、“夢の提供”をモットーにしているディズニーランドのスタッフと比べても、勝るとも劣らないものでした。

彼・彼女らのとても明るく意欲的に仕事をなさっている姿を拝見し、誰しものが意欲や夢を感じつつ生きていける社会をつくるのが、一番のユニバーサルなのでは、と改めて思いました。

読者の皆さん（しょうがい者の方も、そうでない方も）は、みんな意欲的に生きておられる方々でしょう。でも、世の中には、いろいろなことが原因で、意欲的になれないでいる方々も少なくないと思います。どんな人にとっても、意欲的に生きようと思うエネルギーが湧いてくる環境と機会が多くなるような、そんな社会ができれば素晴らしいことです。

『天文教育』前号（2007 年 9 月号）からの「特集:ユニバーサルデザイン天文教育」では、天文を素材にその一端を担いたいと考えている方々による記事が満載でした。この特集が、読者の皆さん自身にとって新しい天文教育普及を発見する一助となれば幸いです。

話は変わって、2009 年は世界天文年、“The International Year of Astronomy 2009” [2]です。このキャンペーンのキャッチコピーは、“THE UNIVERSE : YOURS TO DISCOVER”（公式和訳は未定）。宇宙は、多様な発見の場です。「多様な発見」は、137 億年の時間、470 億光年に及ぶ空間を表すのはもとより、「人類として大切にしなければならないもの、目指さなければならないもの、そして人それぞれの新しい自分の発見」も含まれるのではと思うのは私だけでしょうか。

参考 Web サイト

[1] <http://www.dialoginthedark.com/>

[2] <http://www.astronomy2009.org/>

高橋 淳